

学校法人滋慶学園 東京ベルエポック美容専門学校
2020年度 第1回学校関係者評価委員会 議事録

作成者（書記）：小泉哲郎

日時 2021年6月8日（火）10：00～12：00

会場 東京ベルエポック美容専門学校
東京都江戸川区西葛西6-28-16 TEL03-5667-9090

出席者 学校関係者評価委員会 出席者

区分	氏名	所属	役職
卒業生代表	山根 純平	株式会社エルエスモード	スタイリスト
保護者代表	櫻井 あゆみ	HM科1年在学生の保護者	
高等学校関係者	浅川 潤一	千葉商科大学附属高等学校	学校長
地域関係者	空田 真之	江戸川区葛西・西葛西メトロセンター会	代表取締役
業界関係者	砂川 将也	株式会社オニカム(ALBUM)	人事部長
業界関係者	野田 かをり	パルファン・クリスチャン・ディオール・ジャポン(株)	営業本部 リテール ヒューマン リソース マネージャー

【学園・学校関係者】

古島 暉大 滋慶学園 常務理事
浮舟 洋子 東京ベル美容専門学校 学校長
片山 裕介 東京ベル美容専門学校 副校長
三井 真以子 東京ベル美容専門学校 副運営部長
中村 聖之 東京ベル美容専門学校 事務局長
武田 郁乃 東京ベル美容専門学校 美容師学部長
小泉 哲郎 東京ベル美容専門学校 ヘアメイク・トータルビューティ学部長
中岫 義彦 東京ベル美容専門学校 学生支援センター長
内田 麻奈美 東京ベル美容専門学校 広報センター長

議題 <会議の概要> (進行：内田麻奈美)

- 1、開会挨拶
- 2、評価委員のご紹介並びに学校側出席者の紹介
- 3、本委員会の趣旨説明
- 4、2020年度の自己評価項目と評価内容の説明
- 5、学事報告
- 6、2020年度の自己評価内容報告
- 7、質疑応答・意見交換
- 8、閉会挨拶

議事

1、開会挨拶（副校長 片山）

日頃より本校の本校教育に対するご理解ご協力に対し感謝申し上げます。

この度学校関係者評価委員会の方から頂いた貴重な意見を活かして、更に次年度の学校運営へと活かして参りたいと思います。

（副運営本部長 三井）

職業人教育を通じて社会に貢献するミッションをもとに、常に社会の変化をとらえて産業界ニーズに対応する教育機関である専門学校として職業人教育を行っている。

今のコロナ下での業界の事をぜひ教え頂きたい

2、評価委員のご紹介並びに学校側出席者の紹介

3、本委員会の趣旨説明（事務局長 中村）

各学校が自らの教育活動等の成果や取組を不断に検証することにより、

- （1）各学校が、自らの教育活動その他の学校運営について、組織的・継続的な改善を図ること。
- （2）学校評価の実施・結果の公表により、適切に説明責任を果たすとともに保護者・地域住民等から理解と参画を得て、その連携協力による学校づくりを進めること。
- （3）設置者が、学校評価の結果に応じて、学校に対する支援や条件整備等の改善措置を講じることにより、教育水準の保証・向上を図ること。

4、2020年度の自己評価項目と評価内容の説明（事務局長 中村）

評価の実施方法

- （1）各学校の教職員が行う評価 【自己評価】
- （2）保護者、地域住民等の学校関係者などにより構成された評価委員会が自己評価の結果について評価することを基本として行う評価【学校関係者評価】
- （3）学校と直接関係を有しない専門家等による客観的な評価 【第三評価】

●評価10項目

教育理念・目的・育成人材像、学校運営、教育活動、学修成果、学生支援
教育環境、学生の募集と受け入れ、財務、法令等の遵守、社会貢献・地域貢献

●評価をいただいた結果、職業実践専門課程の承認

文部科学省告示第133号平成25年8月30日

目的：職業に必要な実践的かつ専門的な能力を育成することを目的として専攻分野における実務に関する知識、技術について組織的な教育を行うものを
文部科学大臣が認定

5、学事報告（事務局長 中村）

○開講の目的

東京ベルエポック美容専門学校は、美容に関する高い専門技術、知識、情報力、感性、創造力、コミュニケーション力を持った「美と健康のコーディネーター」を育成します。

その育成を通じて、若者から高齢者まで幅広い世代の人々が、心と身体ともに健やかに美しく、豊かに生きていける社会に貢献します。

1) 教育実績

学校運営の2020年度 教育目標・実績は下記①～③である。

②中途退学	実績/目標	4.6%/6.3%
②就職希望者内定率	実績/目標	100%/100%
③進級率	実績/目標	91.4%/91.0%

目標達成はしているものの、さらなる向上を計る

2) 広報実績

2020年度 4月 入学生238名

2021年度 4月 入学者230名

本校の魅力である「最新の美容とファッションを一人ひとりに」をモットーに

「TOP サロンゼミ」「業界コラボ」などより実践的な教育プログラムと少人数制でサポート体制の整った運営を魅せることで安心感を持ってもらうことを戦略として広報活動を行った。

出願数(今年237名、昨年255名)

コロナの影響もあり、年度当初はオープンキャンパスの来校などは前年度より減少したがいち早くオンラインオープンキャンパスを実施し入学定員の充足をすることができた。

3) 収益実績

ここ数年入学定員を充足していることで中期的な財政基盤を固めることが出来ている。

それにより教室の増築や最新の設備・個別最適化を考えたICT教育など今後導入することで更に質の高い教育を提供していく。

現在も継続している新型コロナウイルスによる美容業界や学生への影響をみると

広報・教育・就職に関するそれぞれの影響が続き、2021年度の運営に影響したと

しても学生への教育の質保証・安全を第一に考えた運営・生涯就職支援を心がけていく。

6、2020年度の自己評価内容報告 (事務局長 中村他)

①教育理念・目的・育成人材像

建学の理念・4つの信頼を軸に職業人教育を行っている。

教育課程編成委員会で頂いた業界からのコメントをカリキュラムに反映しHPにも情報公開をしている

②学校運営

単年ごとに授業計画を定めており、中身に関しては五か年見据えて収益、中期ビジョンを定めて運営をしている

職員一人ひとりに関しても目標設定をしており、委員会、プロジェクトを通じて成長できる環境にしている

③教育活動

業界動向「最新の美容・ファッションを一人ひとりに」をもとに、今、

そして未来を見据えて調査をして養成目的、教育目標を見直し、カリキュラムの変更を行っている。

資格指導体制について、今年度美容師国家試験において不合格者を多く出してしまった。

美容師科 82% ・ 実践科 71% ・ 全国平均 85%

非常に課題が残る結果になってしまった。今年度は合格率を上げる対策を強化する卒業後も合格まで対策に参加してもらう

またアプリを使用した自宅でできる教育も国家試験センターと連動して行っている。

教員の質の向上も研修を入れている。

④学修成果

就職希望率 100%にはなかなかないが、希望就職者においては卒業式までに100%内定を頂いている。

毎月計画を立て、3月の100%を目指して行動している。

また学生はWEBで学校にきた求人を見る事が出来る。

⑤学生支援

退学率低減のため、退学した学生を調査し、総括をする取組みをしている。

教育環境やサポート体制をさらに整備していく。

⑥教育環境

実践教育を行うため、サロン教室やブライダル教室を整え、職業感をもって授業を行うことができる

またプロの現場で実習を行う事で、業界と直結した教育を行うことが出来ている。

⑦学生募集と受け入れ

卒業生の動画を準備して高等学校への訪問も行う

卒業生を通じて業界の情報を共有、在校生への特別授業を行っている。

現状、オンラインでの広報活動も行っている。

⑧財務

さらに良い環境を整えられるよう整えている。

財務報告書、監査報告書に関しては情報公開を行って健全な運営を行っている。

⑨法令等の遵守

専修学校設置基準に基づいて毎年チェックを行っている。

個人情報保護に関しても台帳を基に第三者機関にも入って頂き管理している。

職員学生共にITリテラシーを行い、全問正解するまで行っている。

⑩社会貢献

学校の教育資源を活用した社会貢献に関して、今年度はコロナもあり難しかったが例年であればボランティア活動も行っている。

7、質疑応答・意見交換

浅川委員)

コロナパンデミックと学校の関係性は切っても切れないが、退学率との関係はあるのか学習習慣、生活習慣、コミュニティーなど、どのようにアプローチしているか

またルーブリック評価はどう学生に伝え、どう教えているのか。

事務局長 中村)

オンラインと対面授業の併用を行っている。現在は少しでも不安がある学生へはオンラインを勧めている。本校は7割近い学生が地方出身者であり、一人暮らしや寮生活の学生が多い。新しい生活環境、人間関係、休憩時間の過ごし方や電車を使用する学生は満員電車など登校した場合にストレスに感じるような要因が出てくる。一つひとつの重なったストレスによって学校に行くことが難しいと感じる学生も少なくない。しかし退学者の例年の傾向を見ても遠隔のオンライン授業はそういったストレスを軽減するのに有効であったと考えられる。

新入生は入学の前の全3回実施したプレカレッジにおいてチームビルディングのプログラムや入学後の習慣のアドバイスなどをオンラインで実施し、安心してもらう取り組みをした。

ただ、今年は実践的なスキルを提供する専門学校としては、対面で授業を行いお互いのスキルを高め合ったりする環境を作りあげることが難しかった。

またルーブリック評価は数字や一つの評価では判断しづらいもの、現場実習などの技術以外の評価基準に関して活用して行っている。

また実習前教育にて再度評価基準を確認し、現場において実施した行動を自己評価できるよう活用している。

浅川委員)

人間教育から考えると技術スキルだけではなく、人間的な成長に重きを置いている学校と判断できる。

桜井委員)

コロナ禍で授業においてはオンラインでも学べる環境と聞いているが、登校しても学べる環境を整えてくれて親として嬉しいと感じている。入学して2か月ですが、充実した学校生活を過ごせている。

事務局長 中村)

学園グループの方針としても学生の学びの機会を減らさない様、新型コロナウイルス感染予防対策ガイドラインを遵守し、学生の安全を第一に考えた上で出来るだけ対策を講じてきた。

現在は緊急事態宣言中であるため、対面授業とオンライン授業を併用しているが今後の動向によっても学生の安全・教育の質の担保を一番に考えて実行していきたい。

空田委員)

学校教育だけでなく、商店街もコロナの影響を受けておりイベントを開催できない事が申し訳ない。毎年実施していた東京ベルエポック美容専門学校の皆さんと取り組んでいるイベント活動が中止になってしまった。今回のコロナ禍の中で他のイベントなどはどうだったのか。

小泉)

昨年予定していた地域貢献によるイベントなどはすべて中止になってしまった。

また地域貢献で学べるキャリア教育においては他に補えるものは準備出来なかった。

学内でネイルやメイクを提供している「ビューティトレーニングランド」も営業を中止せざるを得なかった。こういった状況の中、対面でおこなうプログラムが出来なくなった場合に、オンラインなどを活用したプログラムの提案を持ちかけられるよう検討していきたい。

空田委員)

商店街にも学生にもメリットがあったため実施可能になった際には、是非また一緒にイベント等を通じて関係性を作っていきたい。

山根委員)

やはり美容師に必要な国家試験合格率を上げていく事が重要だと思う。今年もまだ新型コロナの影響があるが今年はどのような対策を考えているか。

武田)

国家資格対策としてプロジェクトを組み、美容師科・美容師実践科・ヘアメイク科（通信）に関わる講師陣との連携強化のための定例会、学園グループ国家試験対策センター昨年度課題からの対策を講じ、実技においてもコロナ禍の場合に備えての体制・システムの強化をしていく。

山根委員)

是非、合格率をあげる事ができる環境を整えてほしい。今までも色々な改善をしてきてきているので是非お願いしたい。

卒業生としても微力ながら協力できればと思う。

砂川委員)

ALBUM では東京校から2名、原宿校からも1名を採用させて頂いている。

学生を受け入れる立場としては、入職した後ブラックボックスにならないよう情報を開示していきたいと思う。

武田)

卒業生の入職後の動向を知れるのは我々教職員にとってありがたいこと。卒業生からも同窓会や訪問をしてくれたときに情報を提供してくれているがサロン様からの情報においては在学期間中での更なる課題なども見つかると思う。

野田委員)

弊社としてもよりよい人材を紹介頂くために協力していきたい。

御校のコンテストにおいても弊社のアイテムやアーティストを採用して頂きバリ本社にも報告をした。そんな機会を得た事に感謝している。教育について協力していきたい。

弊社でも社内資格においてオンラインではタッチアップができなかった。

今年度はオンラインで対応できるようにしていくが、国家試験と同様と考える。

やはり目標がないとやりがいがないと感じたので、美容学校でもぜひ目標を大切にしてほしい。

8、閉会挨拶（事務局長 中村）

本日はご多忙の中誠に有難うございました。

今後のスケジュールについてですが、6月22日（火）までに「評価結果及び改善方策シート」を返送して頂き、今年度の事業改善ならびに次年度の事業計画の礎とさせていただきます。